

目次

まえがき 3

第一章 思いとは…………… 13

思いは目的であり手段 14

哲学からもの思いへ 16

日本人が訳語で考える理由 22

感性入りの知性がたいせつ 25

最もよいもの思い方 聖の思い 30

第二章 もの思いの具体例 五行歌で語る…………… 35

一、寂しさの研究 もの思うことの一例として 36

四十八歳時の一作品 36

病気がなくなる 43

二、もの思いを徹底した人たちが聖 49

三、五行歌に観る思い 54

第三章 思いの体系とその作り方、使い方……………67

一、知識、思いの体系 68

組み井戸理論 68

欲望があるから記憶する 71

組み井戸は可動式 77

常識か新理論か 78

二、体系を作る二つの方法 80

創造性ある頭は記憶の仕方が違う 82

三、体系の危険 84

四、中心線を見つけたす 86

絡みついた欲望を一つに 87

精神を作るのと同じ 90

第四章 「思う」は内面をまとめ、操る……………95

三つの内面用語―心、精神、思い 96

三つの内面要素は身体はどこに 100

思いによる心の操作 105

精神を作るものも「思い」	108
思う人は活動する	110
思いに到達はない	112

第五章 古典に見る最高のもの——思い……………115

文章ジャンル	119
ゲーテとシェークスピア	132
感性教育	142

第六章 実作が教えたもの——思いのたいせつさ……………155

八回直してやっとまともに	167
--------------	-----

第七章 人間論……………175

一、人はみな王であり、女王である	176
外国の子どもたちに話す	179
二、人は最高の人となるために生きる	183
三、性格を変えることはできるか	189

第八章 宇宙と人間……………197

一、宇宙は存在、人間は意味……………198

二、永遠の時間と私たち……………205

意識しているときの時間……………210

第九章 文化論……………215

一、一致ということ……………216

二、力と文化……………222

三、文化を定義する……………231

文化戦争は敗者に利益がある……………240

自ら文化を創造する困難さ……………242

第十章 五行歌はなぜよいか……………249

五行歌―気持ちのままの歌……………258

五行歌の会について……………275